

# 北見市上下水道中期経営プラン (後期 平成 27 年度～令和元年度)

## 【令和元年度取り組み状況】

「北見市上下水道中期経営プラン（後期）」は、「北見市上下水道ビジョン（平成 22 年 3 月策定、平成 22 年度～令和元年度）」の実現に向けた後期 5 カ年の主要施策の実施計画を示しています。

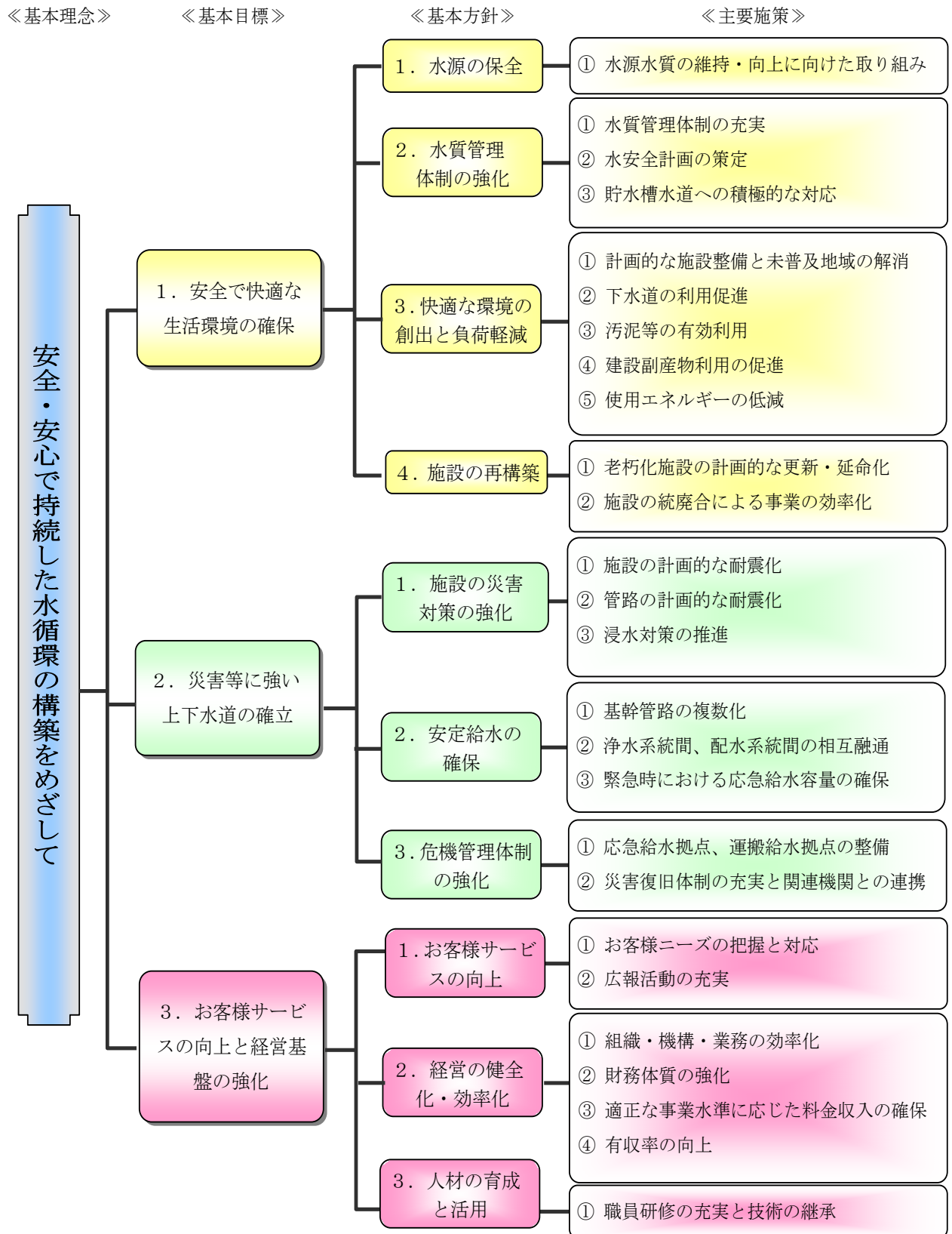
この中期経営プランに基づき実施した令和元年度の取り組み状況等を実績報告として取りまとめ、「第 2 期北見市上下水道ビジョン」に引き継ぎます。

### 目 次

1. 実施計画（体系図）	1
2. 計画の取り組み状況（令和元年度）	
【水道項目】	2
【下水道項目】	4
【共通項目】	5
3. 数値目標一覧	6
4. 財政収支見通し	7

# 1. 実施計画

## 体系図



2. 計画の取り組み状況(令和元年度)

【水道項目】

基本目標	主要施策	事業の内容等	取り組み実績	実績額 (百万円)										
安全で快適な生活環境の確保	水源水質の維持・向上に向けた取り組み	水源水質調査、パトロールの継続、関係機関協議会への参加を行い水源水質の維持向上に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質検査計画に基づき、常呂川の水質調査を行うとともに、高濁度水の発生等水質変化時には河川パトロールを実施しました。</li> <li>・その他の河川についても、取水口上流域における森林伐採等の状況調査を実施しました。</li> <li>・降雨強度計をモニタリングし、高濁度水発生の予測に活用しました。</li> <li>・河川関係機関と水質浄化対策の協議や連絡体制の強化を図りました。</li> <li>・浄水場の施設見学会や出前講座を活用し、水道事業の紹介とPRを行うとともに、水道水源の状況や対策等を周知しました。</li> </ul>											
	水質管理体制の充実	毎年度「水道水質検査計画」を策定・実施し、定期的な検査機器の更新を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成31年度 水質検査計画」を策定し、これに基づき水質検査を実施しました。</li> <li>・検査機器等の更新 液体クロマトグラフ質量分析装置ほか</li> </ul>	33										
	「水安全計画」の策定	「水安全計画」を適宜見直しを行い安定的な水道水の供給に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・供用を開始した大和浄水場について、水安全計画を策定しました。</li> <li>・各浄水場の水安全計画を運用し、検証と見直しを行いました。</li> </ul>											
	貯水槽水道・専用水道への積極的な対応	水質の確保された水道水が供給されるよう、水道事業者として積極的に貯水槽水道・専用水道設置者とともに取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易専用水道設置者及び専用水道設置者に対し法定検査の案内文書を送付し、検査を実施しました。 (70件/73件 検査率 95.9%)</li> <li>・容量が10m<sup>3</sup>以下の小規模貯水槽水道設置者に対し、検査の重要性についての文書を送付しました。 (対象施設 310件)</li> </ul>											
	計画的な施設整備と未普及地域の解消	未普及地域の方々への意向調査を行い、費用対効果も検討し、普及率の向上に取り組めます。  ◎数値目標(水道普及率) 水道水を利用している人の割合 (給水人口/行政区内人口)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未普及地域解消等事業 花月町地区配水管布設工事ほか φ50～φ75 460.6m</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="3">平成30年度に区域を拡張した温根湯温泉地区の水道切替が進み、水道普及率が上昇しました。</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6%</td> <td>94.8%</td> <td>98.6%</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目標	平成30年度に区域を拡張した温根湯温泉地区の水道切替が進み、水道普及率が上昇しました。	H30	R1	R1	94.6%	94.8%	98.6%	33
	実績		目標	平成30年度に区域を拡張した温根湯温泉地区の水道切替が進み、水道普及率が上昇しました。										
	H30	R1	R1											
	94.6%	94.8%	98.6%											
	汚泥等の有効利用	広郷浄水場においては、H27までに天日乾燥ろ床を整備し、現在産業廃棄物として処分している汚泥の有効利用を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化センターボイラー棟解体工事と旧天日乾燥床において、埋戻し材として有効利用を行いました。</li> <li>・歩道植樹帯の補充用土として有効利用を行いました。</li> <li>・市民への無料提供を行いました。</li> </ul>											
	建設副産物利用の促進	産業廃棄物の削減やコスト縮減につながる取り組みとして、再生材料の使用や施工方法の検討を継続的に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装復旧にあたり、アスファルト再生合材(50%)を利用しました。</li> <li>・浅層埋設による土工量及びアスファルト廃材等の縮減の実現に向けて、北見工大との共同研究を計画通り進めています。</li> </ul>	1										
使用エネルギーの低減	「環境計画書」作成の検討や使用エネルギーの少ない機器への更新などを検討し、環境負荷低減に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の現状を把握し、今後の取り組み方針を定めた環境計画書を作成しました。</li> <li>・広郷浄水場において、汚泥掻寄機の運転方法や暖房設備の運用を見直すなど節電対策を実施しました。</li> <li>・金華浄水場の受変電設備を更新し、エネルギー効率の高い機器を導入しました。</li> </ul>												
老朽化施設の計画的な更新・延命化	導送配水管更新事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配水管更新事業 φ50～φ250 北見 4223.7 m 端野 292.7 m 常呂 0.0 m 留辺蘂 32.1 m 計 4548.5 m</li> </ul>	584											
	広郷浄水系統送配水施設更新事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広郷第2配水池の流出弁等を更新しました。</li> <li>・端野自治区三区配水池の流量計を更新しました。</li> </ul>	23											
	金華取水導水配水施設更新について、配水系統の変更や維持管理の効率化などを含め検討します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金華浄水場の受変電設備を更新しました。</li> <li>・金華浄水場の送水ポンプ吐出弁を更新しました。</li> </ul>	86											
	その他の事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広郷浄水場の遠方監視装置・監視カメラ設備を更新しました。</li> <li>・広郷浄水場の取水口濁度計・次亜塩素計を更新しました。</li> <li>・常呂自治区富丘増圧ポンプ場の流量計を更新しました。</li> <li>・温根湯温泉浄水場の高感度濁度計を更新しました。</li> <li>・瑞穂浄水場の膜破断検知器レーザーを更新しました。</li> </ul>	68											
施設の統廃合による事業の効率化	H28までに、1上水道事業へ統合するため統合簡易水道事業などを実施します。 緋牛内浄水場を廃止し、協和地区と統合します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度に温根湯温泉地区の統合簡易水道事業を完了しました。</li> </ul>												

基本目標	主要施策	事業の内容等	取り組み実績	実績額 (百万円)															
災害等に強い上下水道の確立	施設の計画的な耐震化	主要施設の構造物については順次耐震診断を実施し、耐震性の低い施設は耐震化に向けた検討を行います。 ◎数値目標(浄水場耐震化率) 耐震化された浄水施設能力の割合(耐震性のある施設能力/全施設能力)  ◎数値目標(ポンプ場耐震化率) 耐震化されたポンプ場能力の割合(耐震性のある施設能力/全施設能力)  ◎数値目標(配水池耐震化率) 耐震化された配水池容量の割合(耐震性のある配水池容量/全配水池容量)	・吉野浄水場の耐震診断調査を行いました。	10															
			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="3">吉野浄水場の一部に耐震性能が不足することが確認されたため、耐震化率は同率です。</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.6%</td> <td>95.6%</td> <td>95.7%</td> </tr> </tbody> </table>		実績		目標	吉野浄水場の一部に耐震性能が不足することが確認されたため、耐震化率は同率です。	H30	R1	R1	95.6%	95.6%	95.7%					
			実績		目標	吉野浄水場の一部に耐震性能が不足することが確認されたため、耐震化率は同率です。													
	H30	R1	R1																
	95.6%	95.6%	95.7%																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="3">主要なポンプ場の耐震診断調査が実施済みのため、耐震化率は同率です。</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.4%</td> <td>85.4%</td> <td>94.0%</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目標	主要なポンプ場の耐震診断調査が実施済みのため、耐震化率は同率です。	H30	R1	R1	85.4%	85.4%	94.0%								
	実績		目標	主要なポンプ場の耐震診断調査が実施済みのため、耐震化率は同率です。															
	H30	R1	R1																
	85.4%	85.4%	94.0%																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="3">主要な配水池について計画的に耐震診断を実施しています。(令和2年度完了予定)</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31.3%</td> <td>31.3%</td> <td>52.9%</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目標	主要な配水池について計画的に耐震診断を実施しています。(令和2年度完了予定)	H30	R1	R1	31.3%	31.3%	52.9%								
実績		目標	主要な配水池について計画的に耐震診断を実施しています。(令和2年度完了予定)																
H30	R1	R1																	
31.3%	31.3%	52.9%																	
管路の計画的な耐震化	基幹管路については優先的に、他の管路についても更新と併せ積極的に耐震化に取り組みます。 ◎数値目標(水道管路耐震化率) 耐震化された水道管路の割合(耐震管延長/管路総延長)	・管路耐震化事業 ダクタイル鋳鉄管(GX形) 1872.0 m	(送配水管更新事業費に計上)																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="3">老朽管更新事業に併せて口径φ150mm以上の管は耐震管を採用しました。</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.5%</td> <td>4.9%</td> <td>6.1%</td> </tr> </tbody> </table>		実績		目標	老朽管更新事業に併せて口径φ150mm以上の管は耐震管を採用しました。	H30	R1	R1	4.5%	4.9%	6.1%						
実績		目標	老朽管更新事業に併せて口径φ150mm以上の管は耐震管を採用しました。																
H30	R1	R1																	
4.5%	4.9%	6.1%																	
基幹管路の複数化	基幹管路の2系統化事業を検討・実施します。	・三輪ポンプ場以降の送水管2系統化について検討を進めました。																	
浄水系統間、配水系統間の相互融通	連絡管整備計画の策定を行います。	・水需要の減少を踏まえ、施設間の浄水融通から施設の統廃合にシフトしていますが、検討の結果、現時点で統廃合可能な施設はありません。																	
	金華浄水系統～広郷浄水系統・温根湯温泉上水系統連絡管工事を実施します。	・現時点で統廃合可能な浄水場が無いため、工事は未実施です。																	
緊急時における応急給水容量の確保	緊急貯水槽整備計画の策定を行います。	・老朽化施設更新等に重点を置き事業を進めているため、現時点では未策定です。																	
	緊急貯水槽整備工事を検討、実施します。	・同上																	
応急給水拠点、運搬給水拠点の整備	応急給水拠点、運搬給水拠点整備計画の策定を行います。	・令和元年度の取り組みはありませんが、今後更新する中区配水池に運搬給水拠点としての機能を持たせる予定です。																	
	配水施設整備に併せた拠点整備に取り組みます。	・同上																	
災害復旧体制の充実と関連機関との連携	災害関連マニュアルの整備や緊急資機材の備蓄、水処理情報の一元化及びマッピングシステムの精度向上に取り組みます。	・水道マッピングシステムのデータ更新を行いました。 ・広郷浄水場の苛性ソーダ注入設備に機能追加し、災害対策を強化しました。 ・広郷浄水場及びその関連施設並びに端野自治区の配水池について、水位等の情報をノートパソコン等のモバイル端末で監視できるようにシステムを整備しました。 ・緊急資機材として漏水バンドや給水袋5,000枚を購入しました。	23																
お客様サービスの向上と経営基盤の強化	有収率・有効率の向上  有収率、有効率の向上は事業経営上においても重要課題であるため、継続的に取り組みます。  ◎数値目標(有収率) 料金徴収の対象となる水量及び他会計等から収入のある水量の割合(有収水量/給水量)  ◎数値目標(有効率) 有効に使用された水量の割合(有効水量/給水量) ※有効水量:有収水量に洗管等の事業用水量を加えた水量	・有収率向上のための取り組みを行いました。 老朽管更新工事・漏水調査・漏水修繕工事	36																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="2">計画的に老朽管更新工事・漏水調査を進めていますが、老朽管の増加などにより目標に達しませんでした。</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有収率</td> <td>79.3%</td> <td>79.2%</td> <td>84.4%</td> </tr> <tr> <td>有効率</td> <td>86.2%</td> <td>86.3%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table>			実績		目標	計画的に老朽管更新工事・漏水調査を進めていますが、老朽管の増加などにより目標に達しませんでした。	H30	R1	R1	有収率	79.3%	79.2%	84.4%	有効率	86.2%	86.3%	90.0%
					実績		目標		計画的に老朽管更新工事・漏水調査を進めていますが、老朽管の増加などにより目標に達しませんでした。										
H30	R1		R1																
有収率	79.3%	79.2%	84.4%																
有効率	86.2%	86.3%	90.0%																

基本目標	主要施策	事業の内容等	取り組み実績			実績額 (百万円)	
安全で快適な生活環境の確保	計画的な施設整備と未普及地域の解消	未普及地域の方々への意向調査を行い、費用対効果も検討し、普及率の向上に取り組みます。  ◎数値目標(下水道普及率) 下水道・漁業集落排水が利用可能な人の割合 (処理区域内人口/ 認可区域内人口)	汚水処理施設整備事業 汚水管整備 φ200 mm L=22.29m 公共汚水樹の新設、更新			106	
			実績		目標		計画通りに推移しています。
			H30	R1	R1		
			99.8%	99.8%	99.8%		
	下水道の利用促進	水洗化率の向上に向けて継続的に啓発活動を行います。	・未水洗家屋の家屋所有者に対し、啓発文書を送付しました。 対象件数 679件 水洗化件数 10件				
	汚泥等の有効利用	下水汚泥については、全量を有効利用するための方法・施設整備の検討を行い、また消化ガスについても利用の検討・整備を行います。	・現在、汚泥を産廃処理している端野の下水処理を北見に統合するための実施設計を行いました。				長寿命化対策・改築更新費に計上
	建設副産物利用の促進	産業廃棄物の削減やコスト縮減につながる取り組みとして、再生材料の使用や施工方法の検討を継続的に取り組みます。	・舗装復旧にあたり、アスファルト再生合材(50%)を利用しました。 ・取り壊した既設の舗装合材は、再資源化プラントにおいて処理しました。				
	使用エネルギーの低減	「環境計画書」作成の検討や使用エネルギーの少ない機器への更新などを検討し、環境負荷低減に取り組みます。	・北見市浄化センターの曝気ブロウ設備の更新を進めています(令和2年度完了予定)。 ・使用エネルギー低減のため、一部のポンプの運転方法を見直しました。 ・環境計画書を作成しました。				36
	老朽化施設の計画的な更新・延命化	長寿命化計画の策定を行います。	・管渠内カメラ調査～昭和通、とん田通ほか L=24202.35m				94
			・下水道処理施設ストックマネジメント計画を策定しました。				21
長寿命化対策・改築更新事業を実施します。		・管路改築事業(山下通地区、春光町・公園町・条丁目地区) φ200～φ1000 mm L=1632.31m  ・改築更新事業 最終沈殿池設備更新、水処理棟電気設備更新、消化タンク改修、給油設備更新、旧ボイラ棟解体(北見市浄化センター) ポンプ場化実施設計(端野町下水道管理センター) 改築更新実施設計(留辺蘂町下水道管理センター)				405 202	
災害等に強い上下水道の確立	施設の計画的な耐震化	耐震診断の結果と長寿命化計画に合わせた耐震化に取り組みます。  ◎数値目標(処理場の耐震化率) 耐震化された処理場の構造物割合  (耐震性のある構造物数/ 構造物数)	・北見市浄化センターの旧ボイラ棟を解体しました。			長寿命化対策・改築更新費に計上	
			実績		目標		平成30年度に北見市浄化センターの消化タンク、ボイラ棟などの改築更新により目標到達し、旧ボイラ棟の解体で更に耐震化率が上昇しました。
	H30	R1	R1				
			32.2%	32.8%	32.2%		
管路の計画的な耐震化	耐震化を踏まえた長寿命化計画の策定に取り組みます。	長寿命化計画に併せた耐震化に取り組みます。  ◎数値目標 (重要な下水幹線等耐震化率) 耐震化された重要な下水幹線等の割合 (耐震管延長/ 重要な幹線等延長)	・下水道施設全体を見て重要度の高い施設から改築・更新を行う「ストックマネジメント計画」を策定しました。			34	
			実績		目標		布設替工事等により耐震化率の目標を達成しました。
	H30	R1	R1				
		9.4%	10.0%	10.0%			
浸水対策の促進	大雨の影響を受けやすい地域から優先的に雨水管整備に取り組みます。  ◎数値目標(雨水面積整備率) 雨水整備の計画面積に対する浸水対策済み面積割合 (雨水整備面積/ 公共下水道事業認可区域面積)	雨水管・合流管整備事業 雨水管・合流管整備(桜町、東陵町、東相内町、川東、大町、緑ヶ丘) φ350～φ1500 L=801.43m  入馬川幹線(桜町・朝日町・田端町)の複数化整備等によりH29年度に目標達成しました。				303	
			実績		目標		
			H30	R1	R1		
		62.5%	61.8%	61.2%			

基本目標	主要施策	事業の内容等	取り組み実績	実績額 (百万円)									
お客様サービスの向上と経営基盤の強化	お客様ニーズの把握と対応	アンケート調査を定期的実施するなど、データの蓄積と分析によりお客様サービスの向上に取り組みます。  ◎数値目標(アンケート情報収集割合) 調査対象とした調査票送付件数に対する回答件数の割合(回答件数/送付件数)	・2,000件を対象に災害時の備えや料金改定の実施、サービス提供等について「水道・下水道に関する市民アンケート」を実施し、結果の分析を行いました。 ・来庁者を対象に水道料金等徴収業務受託業者の対応についてアンケート調査を実施し、結果の分析を行いました。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>44.0%</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table> 今後も定期的にアンケート調査を実施し、お客様ニーズの把握に努めます。		実績		目標	H30	R1	R1	—	44.0%	50.0%
	実績		目標										
	H30	R1	R1										
	—	44.0%	50.0%										
	広報活動の充実	各種広報活動を充実させることにより、事業経営についてお客様のご理解と信頼を得るよう取り組みます。  ◎数値目標(上下水道事業に係る情報の提供度) 広報誌などによる利用者への情報提供の割合(広報誌等掲載回数)	・上下水道事業の予算・決算、施設の維持管理の状況や断水・事故情報のほか、各種の届出や収納窓口に関する情報等、お客様が必要とする情報や「水道週間」・「下水道の日」についての周知を広報誌及び市ホームページやSNS等により実施しました。 ・浄水場及び終末処理場の施設見学を受け入れ、事業内容の説明を行いました。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 今後も継続して、市民の皆様が情報を入手しやすい広報誌や市ホームページを積極的に活用します。	実績		目標	H30	R1	R1	6	4	4
実績			目標										
H30	R1	R1											
6	4	4											
組織・機構・業務の効率化	継続的に組織・機構・業務を見直すことにより効率的な企業経営に取り組みます。	・組織・機構、業務の見直しなどについて継続的に調査研究を進めました。 ・下水道事業の公共汚水樹新設・更新工事について、発注方法を見直し、事務の効率化を図りました。											
財務体質の強化	財政計画の策定、未利用資産の有効利用などを実施し、財務体質の強化に取り組みます。	・「北見市上下水道ビジョン」に基づき予算を編成し、執行しました。 ・起債充当率の引き下げによる利払い費の圧縮効果や事務経費の節減等により、水道事業で136,232,224円、下水道事業で301,605,228円のそれぞれ当年度純利益となりました。											
適正な事業水準に応じた料金収入の確保	定期的な料金水準の検討を行い将来の事業経営の安定を目指します。	・財務状況の開示 広報5月号(予算)及び広報11月号(決算)に掲載したほか、市ホームページに経営情報として、各種資料を掲載しました。 ・料金制度や経営状況に関する広報活動 出前講座により料金制度や経営状況に関するPRを行いました。  ・第2期北見市上下水道ビジョンの策定 水量及び料金・使用料収入の将来予測を推計して投資・財政計画に反映し、これを財源とする各種施策を決定しました。											
職員研修の充実と技術の継承	安定的に事業を継続できるよう、研修制度の充実や、技術の継承に取り組みます。	・「平成31年度北見市上下水道局職員研修計画」を策定し、全体・専門別研修を実施するとともに、外部研修に参加しました。		2									

### 3. 数値目標一覧

#### 基本目標1. 安全で快適な生活環境の確保

指標名	指標の持つ意味 (算出式)	策定時 H20	前期末 H26	実績数値					目標 R1
				H27	H28	H29	H30	R1	
1-3-① 水道普及率	水道水を利用している人の割合 (給水人口/行政区域内人口)	94.2%	94.3%	94.4%	94.4%	94.5%	94.6%	94.8%	98.6%
1-3-① 下水道普及率	下水道・漁業集落排水が利用可能な人の割合 (処理区域内人口/認可区域内人口)	99.5%	99.7%	99.7%	99.7%	99.7%	99.8%	99.8%	99.8%

#### 基本目標2. 災害等に強い上下水道の確立

指標名	指標の持つ意味 (算出式)	策定時 H20	前期末 H26	実績数値					目標 R1
				H27	H28	H29	H30	R1	
2-1-① 浄水場耐震化率	耐震化された浄水施設能力の割合 (耐震性のある施設能力/ 全施設能力)	7.0%	95.4%	95.4%	95.5%	95.5%	95.6%	95.6%	95.7%
2-1-① ポンプ場耐震化率	耐震化されたポンプ場能力の割合 (耐震性のある施設能力/ 全施設能力)	29.6%	84.9%	84.9%	84.9%	85.3%	85.4%	85.4%	94.0%
2-1-① 配水池耐震化率	耐震化された配水池容量の割合 (耐震性のある配水池容量/ 全配水池容量)	9.8%	27.5%	27.5%	27.7%	28.7%	31.3%	31.3%	52.9%
2-1-② 水道管路耐震化率	耐震化された水道管路の割合 (耐震管延長/管路総延長)	0.5%	3.7%	4.0%	4.2%	4.3%	4.5%	4.9%	6.1%
2-1-① 処理場の耐震化率	耐震化された処理場の構造物割合 (耐震性のある構造物数/構造物数)	13.8%	25.9%	25.9%	25.9%	25.9%	32.2%	32.8%	32.2%
2-1-② 重要な下水幹線等の耐震化率	耐震化された重要な下水幹線等の割合 (耐震管延長/重要な幹線等延長)	8.0%	8.5%	8.6%	8.6%	8.9%	9.4%	10.0%	10.0%
2-1-③ 雨水面積整備率	雨水整備の計画面積に対する浸水対策済みの面積割合 (雨水整備面積/公共下水道 事業認可区域面積)	54.9%	60.4%	60.5%	60.9%	62.4%	62.5%	61.8%	61.2%

#### 基本目標3. お客様サービスの向上と経営基盤の強化

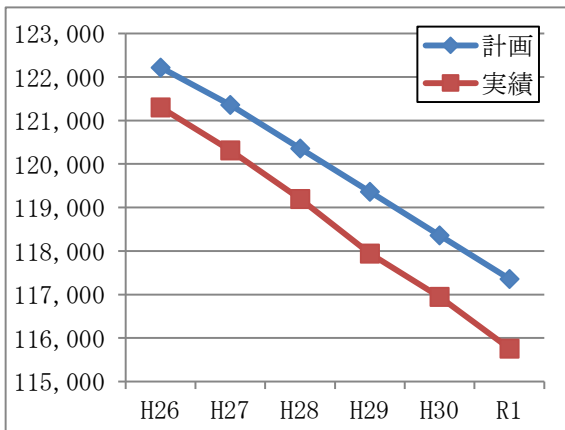
指標名	指標の持つ意味 (算出式)	策定時 H20	前期末 H26	実績数値					目標 R1
				H27	H28	H29	H30	R1	
3-1-① アンケート情報収集割合	アンケート調査依頼数に対する回答数の割合 (アンケート回答数/調査依頼数)	-	36.7%	-	-	-	-	44.0%	50.0%
3-1-② 上下水道事業に係る情報の提供度	広報誌等掲載回数 (年度中の掲載回数)	2回	3回	3回	3回	3回	6回	4回	4回
3-2-④ 有収率	料金徴収の対象となる水量の割合 (有収水量/給水量)	76.9%	77.8%	80.1%	80.8%	80.8%	79.3%	79.2%	84.4%
3-2-④ 有効率	有効に使用された水量の割合 (有効水量/給水量) ※有効水量: 有収水量に洗管等の事業用水量を加えた水量	83.0%	85.0%	86.9%	87.6%	87.7%	86.2%	86.3%	90.0%

## 4. 財政収支見通し

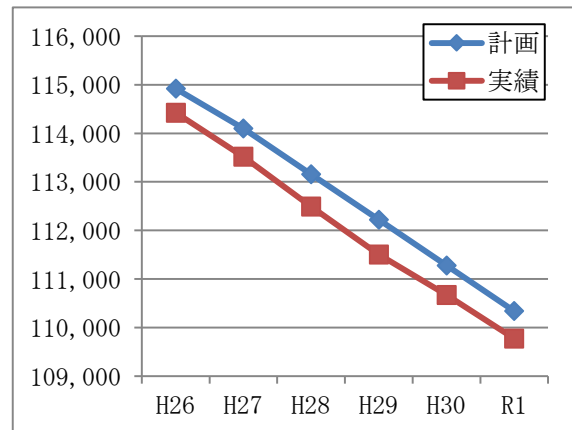
### (1) 水需要量の状況

年 度		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
①行政区域内人口(人)	計画	122,220	121,360	120,360	119,360	118,360	117,360
	実績	121,303	120,314	119,194	117,939	116,944	115,761
②給水人口 (人)	計画	114,920	114,100	113,160	112,220	111,280	110,340
	実績	114,425	113,519	112,495	111,505	110,671	109,776
③給水戸数 (戸)	計画	67,030	66,550	66,010	65,460	64,910	64,360
	実績	67,308	67,486	67,830	68,116	68,270	68,486
④有収水量 (m <sup>3</sup> /日)	計画	32,503	32,500	32,349	32,198	32,047	31,896
	実績	31,950	31,603	31,451	31,122	30,635	30,439

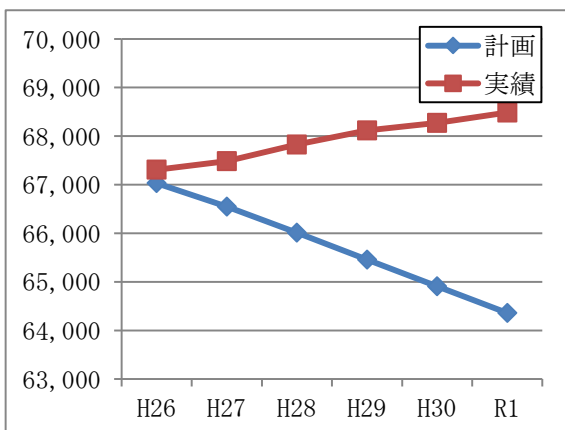
①行政区域内人口 (人)



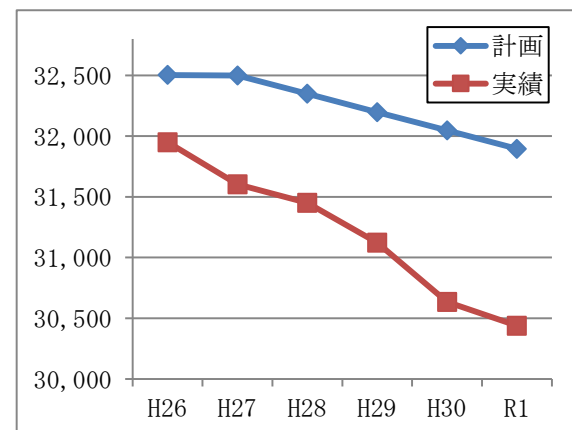
②給水人口 (人)



③給水戸数 (戸)



④有収水量 (m<sup>3</sup>/日)



行政区域内人口の減少に伴い給水人口が減少している一方で、給水戸数（空き家を含む）は増加しています。また、節水型機器の普及などの影響もあり、有収水量は計画との乖離が大きくなっています。令和元年度の有収水量（m<sup>3</sup>/日）は前年度と比べ0.64%の減となりました。

※有収水量 : 料金徴収の対象となった水量及び他会計等からの収入があった水量。



(2) 令和元年度の財政計画と実績

◎水道事業

(単位：百万円)

区 分	計 画	実 績	実績－計画
受入資金 (A)	3,960	3,881	△ 79
うち料金収入	2,366	2,537	171
支払資金 (B)	4,056	3,778	△ 278
うち建設改良費	1,167	1,089	△ 78
収支差引 (C)=(A)-(B)	△ 96	103	199
資金残高 (D)=(C)+前年度	3,117	3,872	755

◎下水道事業

(単位：百万円)

区 分	計 画	実 績	実績－計画
受入資金 (A)	7,009	6,072	△ 937
うち使用料収入	1,874	1,832	△ 42
支払資金 (B)	6,744	5,880	△ 864
うち建設改良費	2,269	1,661	△ 608
収支差引 (C)=(A)-(B)	265	192	△ 73
資金残高 (D)=(C)+前年度	11	79	68

◎水道事業

受入資金 (A) では、事業量の減少に伴い企業債等の収入が計画を下回りましたが、料金収入については、平成30年11月分から料金を改定したことにより計画を上回っています。

支払資金 (B) では、建設改良費が金華系統の更新事業の延伸などにより減少したほか、低金利により支払利息が減少したこと、職員の若年化に伴い人件費が抑制されたことなどから計画を下回りました。

この結果、収支差引 (C) で受入資金が支払資金を103百万円上回り、資金残高 (D) は、計画に比べ755百万円上回っています。

◎下水道事業

受入資金 (A) では、使用料収入が減少したことや国庫補助金が要望額を満たさなかったことなどにより計画を下回りました。

支払資金 (B) では、低金利により支払利息が減少したほか、職員の若年化に伴う人件費の抑制などにより計画を下回りました。

この結果、収支差引 (C) で受入資金が支払資金を192百万円上回り、資金残高 (D) は、計画に比べ68百万円上回っています。

※水道事業、下水道事業ともに資金残高は計画を上回って推移していますが、人口減少などの影響から使用水量が減少する中で、増加する老朽化施設の更新を着実に進めていかなければなりません。令和2年度以降は、第2期北見市上下水道ビジョンに掲げた目標の実現に向けて、経営状況等を勘案しながら効率的に事業を実施し、持続可能な上下水道の構築を目指してまいります。

参考：＜財政収支の見通し（資金）、計画・実績＞

◎水道事業

計画

(単位：百万円)

年 度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受入資金 (A)	4,450	4,307	4,262	4,521	4,133	3,960
うち料金収入	2,395	2,417	2,400	2,389	2,378	2,366
支払資金 (B)	4,280	4,125	4,122	4,491	4,141	4,056
うち建設改良費	1,628	1,493	1,431	1,698	1,306	1,167
収支差引 (C)=(A)-(B)	170	182	140	30	△8	△96
資金残高 (D)=(C)+前年度	2,869	3,051	3,191	3,221	3,213	3,117

実績

(単位：百万円)

年 度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受入資金 (A)	4,250	3,963	4,637	3,632	3,558	3,881
うち料金収入	2,345	2,380	2,370	2,351	2,400	2,537
支払資金 (B)	3,885	3,697	4,263	3,566	3,559	3,778
うち建設改良費	1,490	1,198	1,824	981	886	1,089
収支差引 (C)=(A)-(B)	365	266	374	66	△ 1	103
資金残高 (D)=(C)+前年度	3,064	3,330	3,704	3,770	3,769	3,872

◎下水道事業

計画

(単位：百万円)

年 度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受入資金 (A)	6,712	6,817	6,680	6,954	6,917	7,009
うち使用料収入	1,906	1,914	1,900	1,891	1,883	1,874
支払資金 (B)	6,342	6,466	6,307	6,610	6,614	6,744
うち建設改良費	1,766	1,886	1,777	2,104	2,115	2,269
収支差引 (C)=(A)-(B)	370	351	373	344	303	265
資金残高 (D)=(C)+前年度	△1,625	△1,274	△901	△557	△ 254	11

実績

(単位：百万円)

年 度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受入資金 (A)	6,367	6,501	6,542	6,967	6,622	6,072
うち使用料収入	1,860	1,889	1,882	1,864	1,838	1,832
支払資金 (B)	5,958	6,095	6,036	6,631	6,397	5,880
うち建設改良費	1,512	1,596	1,701	2,255	2,148	1,661
収支差引 (C)=(A)-(B)	409	406	506	336	225	192
資金残高 (D)=(C)+前年度	△1,586	△1,180	△674	△338	△ 113	79

※当初計画に企業債の借り換えを見込んでいないため、実績値の受入資金(A)及び支払資金(B)では借換債の額を除いています（平成28年度240百万円、平成29年度857百万円、平成30年度841百万円）。